

環境 NEWS (第6回)



全日本サーフキャスティング連盟本部 環境部

持続可能な開発目標(SDGs)についてご説明して参りましたが、「壮大過ぎて理解出来ない」とのご意見を耳にしました。

今回は、具体的に、我われ釣り人が関係する海洋汚染について考えてみましょう。

■釣り人が出す海洋ゴミについて

海のプラスチックごみを少しでも減らすために、我われ全日本サーフは、海岸のクリーンアップ活動を行っております。

あえて、釣り人が誤って海のゴミを排出するケースを考えてみましょう。もちろん、全日本サーフの会員さんは常日頃から気を付けていらっしゃると思いますが、確認の意味で述べさせていただきます。

<考えられるもの>

- ・道糸、力糸(PE やナイロン製など)
- ・テンビン、鉛製オモリ

※一部では、「鉛は低環境負荷」とも言われていますが、欧州では鉛に関する規制がかなり厳しいのが実情です。

- ・仕掛け(釣りバリ、ハリス)、サルカン類

※ハリやサルカンなどの鉄類は、一般的には海水で錆びるため環境負荷は低いとされています。

<排出しないためには>

可能な限り、海底に取り残さない工夫が必要です。

- ・木製のエサ箱を使用する(エサは、風で飛ぶおそれのあるプラスチック容器で購入しない)
- ・釣り場の選択(根掛かりを恐れず挑戦することが、本当にベストなことなのか)
- ・高切れの予防(古いラインや傷のあるラインは早目に交換する)
- ・高切れで取り残された仕掛けを回収してみる(砂浜の場合、同じ場所に何度か投入してみると、無くした仕掛けを回収できる場合があります)
- ・環境にやさしい素材のものを使用する(例えば、鉄製やタングステン製のオモリの使用。今後出来るかどうかは分かりませんが、自然石製のオモリや植物由来のハリスなど)

「どうしたら釣れるか」だけでは無く、いろいろなことを考えることが重要です。